

2019/3/20

柏の景気情報（平成31年2月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成31年2月分）

○ 調査期間：平成31年2月27日～平成31年3月11日

○ 調査対象：柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	74	47.4%
建設	44	21	47.7%
製造	33	16	48.5%
卸・小売	44	24	54.5%
サービス	35	13	37.1%

○ 調査方法と調査表：下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

--

DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成30年2月の調査結果のポイント】

《全産業況DIは悪化。先行きは懸念材料多いが改善の動きあり》

○2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.3(前月水準▲19.7)となり、マイナス幅が4.6ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲23.0(同±0.0)、建設業▲33.3(同▲23.5)、卸小売業▲33.3(同▲26.9)である。

【建設業】からは、「消費税増税前にというより、必要に迫られ行う工事の方が多く感じる。財布の紐は固い」(一般土木建築工事業)、「市、県の早期発注が多く、ありがたい」(土木工事業)、「好景気感がなく、活気が乏しい。職種により差が出ている」(電気工事業)、「2月は稼働日が少なく景況悪化。3月から畳表替や裏返し、新量仕上げ工事等増加を祈る」(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「紙の値上げが大きく響いている。通販による宅配が増え、各紙メーカーが普通紙より段ボール製作に力を入れている為」(印刷業)、「医療向け建築資材の受注見通しがオリンピック関連施工の影響で不透明」(特殊産業用機械)、「経済の流れの方向を判別できず、不安感ばかりが煽られている現況。知恵を絞って抜けていきたい」(印刷業)、「3月までは売上含め好調だったが、客先の設備投資が鈍化し、3月以降の受注残が極端に減少」(金属加工機械製造業)、などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「食関連消費は好調に推移するも、アパレルを中心とした物販に対する消費は不振傾向」(百貨店)、「日欧EPAによる関税撤廃のニュースは消費者の関心も高く、影響あり。3月より値上げする商品は2月末に動きが大きかった」(各種商品小売業)、「主力商品が学校関係の為、3～5月で年間のほぼ50%を販売」(書籍・文房具小売業)、「店舗売上は堅調に推移。とりわけバレンタイン商戦が伸張」(百貨店)、「1月下旬より改装に伴う休業店舗増の中、昨年リニューアルに伴い食物販導入が奏功。売上は好調に推移」(各種商品小売業)、「値上げのニュースが多く、全体的な買い控えが続くのが不安」(各種商品小売業)、「SNS効果でバレンタインが昨年より売上増」(菓子・パン小売業)、「春の商材の他社品が多くなり、昨年通りの受注が取れていない。GW10連休の対策を思案中。すでに輸送トラックが確保できない状況。消費税増税時期と定番品の特需との対策が打てない状況」(食料・飲料卸売業)、「中旬まで各物処分できたが、下旬は例年より早く止まった。春物出足は今一つで、前半の売上UPを食った結果に」(婦人・子供服小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「雪の影響で若干のキャンセル等あったが、大きく変動なし」(日本料理)、「民間主義のまちづくりはトップやリーダーが決め手。今はいない。そごう空き家、商業地の塾の乱立を見れば分かる」(不動産賃貸業)、「年度末駆け込み工事でタイトな状況。ただ、年度明けが不安」(ソフトウェア業)、「購入希望の方は、前回同様入っている。ただ、契約までに時間がかかり価額の値引き要望が強い。売却については、相続や空き家処分等が増加。全体としては厳しい状況」(不動産管理業)、「昨年末に竣工した居住用収益物件の客付け状況の出足が、繁忙期入りしたにも関わらず鈍い。既存収益物件は良好」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎利益減少

各業種より、「大規模製造業と中小・零細製造業の業績が乖離している。大企業は利益を内部留保し、給与水準を押し上げて人員を確保。しかし、下請けにコストダウン要求する為、中小企業で働く人々の賃金は上がらないし、人員確保も出来ない」(金属製品製造業)、「仕入単価の上昇が続いている。年末の駆け込み需要の反動か受注は落ちた。消費税増税前の駆け込みも見られない」(機械・同部品製造業)、「原材料、部材の仕入価格が上げ止まるも、施工単価が下落。受託物件の規模、件数は前年度と変わらないが、施工単価の下落により売上高、利益減少。また、早朝、残業禁止により、工期に間に合わせる為の人材確保も増加。4月からは土日の現場施工禁止も増える為、益々厳しい業況となりそう」(職別工事業)との声が寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「社員の高齢化と若手社員の退職で今後の人材不足が懸念される。募集は出しているが、若い人の応募が無い。休日日数を増やす等色々手は打つも、難しいのが現状」(自動車付属品製造業)、「年度末の為、辞めるアルバイトの人数に新規が追いつかない」(各種商品小売業)、「販売員のパート、バイトが集まらず」(菓子・パン小売業)、「貨物自動車運送事業法が一部改正。適正運賃での受注に期待。業界の人手不足は継続」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲20.0	▲22.2	▲12.5	▲33.3	▲6.6
10月	▲12.8	▲10.5	△6.2	▲36.8	▲6.2
11月	▲12.8	▲5.5	△12.5	▲38.0	▲13.3
12月	▲12.8	▲21.0	±0.0	▲30.0	△6.2
1月	▲19.7	▲23.5	▲20.0	▲26.9	±0.0
2月	▲24.3	▲33.3	±0.0	▲33.3	▲23.0
見通し	▲13.5	▲28.5	△6.2	▲16.6	▲7.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成31年2月の業況についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24. 3(前月水準▲19. 7)となり、マイナス幅が4. 6ポイント拡大した。

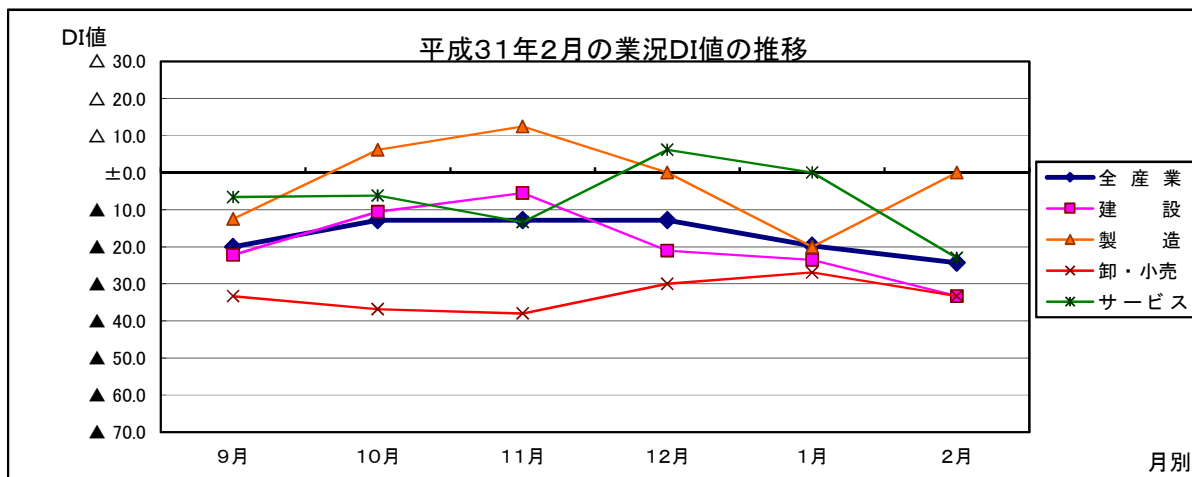
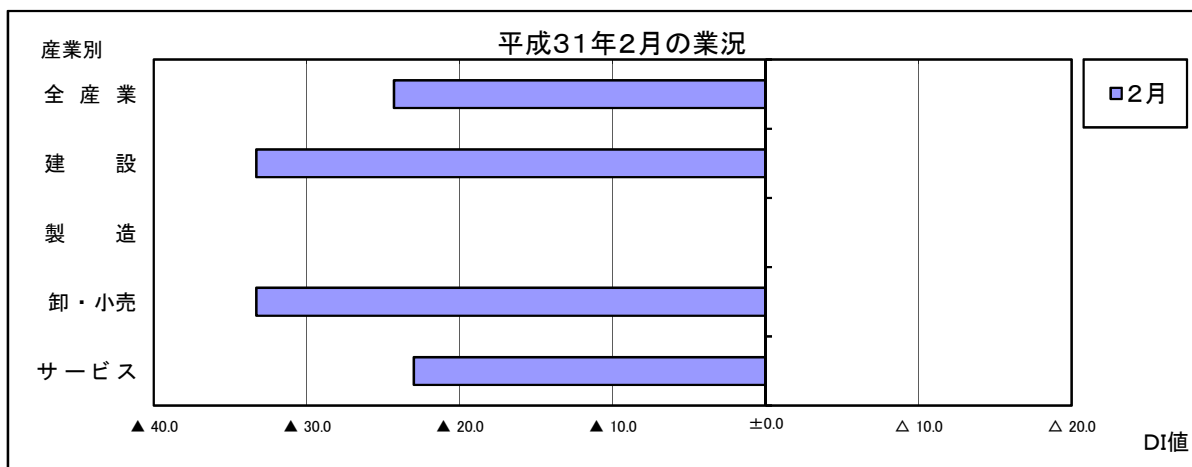
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業±0. 0(同▲20. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲23. 0(同±0. 0)、建設業▲33. 3(同▲23. 5)、卸小売業▲33. 3(同▲26. 9)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13. 5(前月水準▲15. 4)となり、マイナス幅が1. 9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲16. 6(同▲30. 7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△6. 2(同△6. 6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲7. 6(同±0. 0)、建設業▲28. 5(同▲23. 5)である。

平成31年2月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	先行き見通し 3月～5月(1月～3月)
全産業	▲20.0	▲12.8	▲12.8	▲12.8	▲19.7	▲24.3	▲13.5(▲15.7)
建設	▲22.2	▲10.5	▲5.5	▲21.0	▲23.5	▲33.3	▲28.5(▲42.1)
製造	▲12.5	△6.2	△12.5	±0.0	▲20.0	±0.0	△6.2(△13.3)
卸・小売	▲33.3	▲36.8	▲38.0	▲30.0	▲26.9	▲33.3	▲16.6(▲30.0)
サービス	▲6.6	▲6.2	▲13.3	△6.2	±0.0	▲23.0	▲7.6(△6.2)



【平成31年2月の売上についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.6(前月水準▲5.6)となり、マイナス幅が16.0ポイント拡大した。

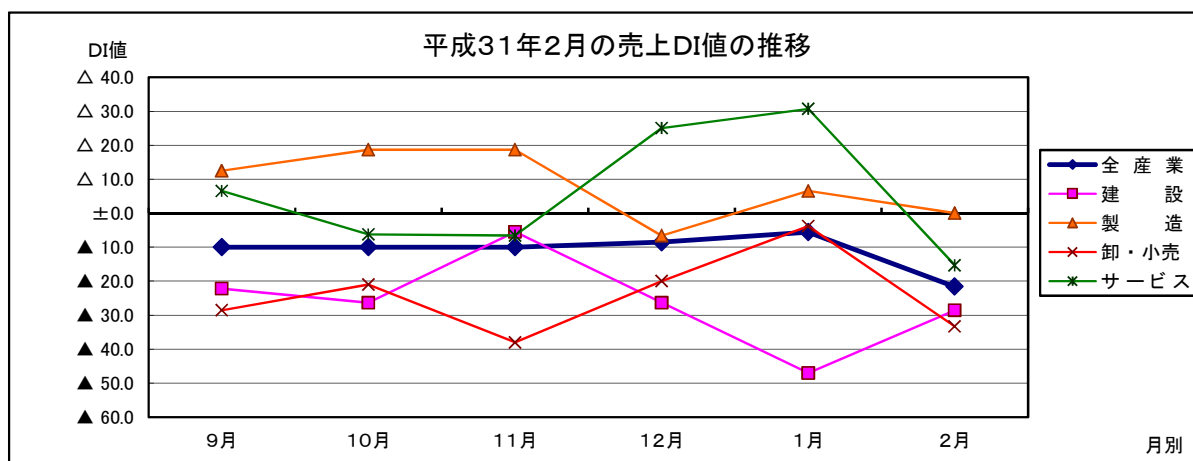
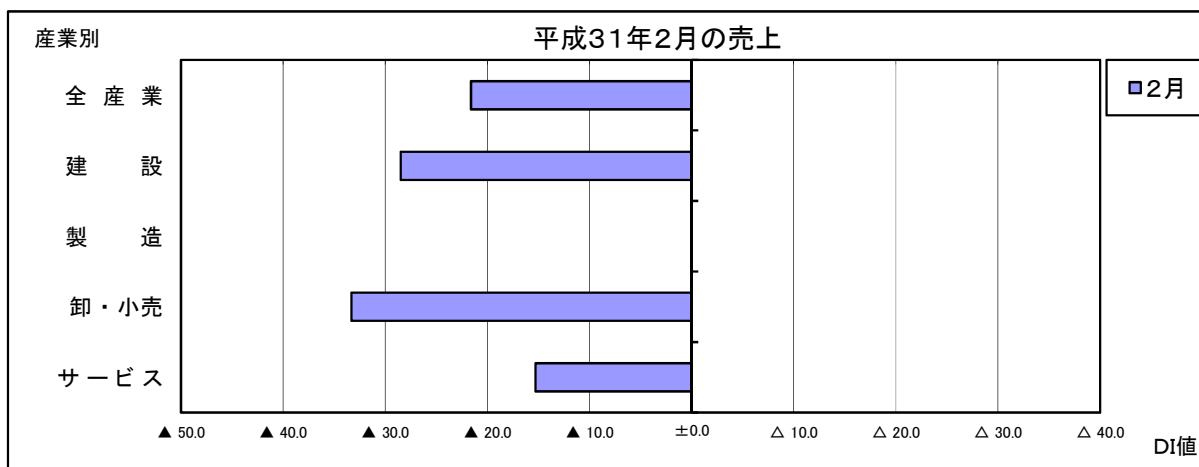
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲28.5(同▲47.0)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同△6.6)である。プラスからマイナスに転じた業種は、サービス業▲15.3(同△30.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲33.3(同▲3.8)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.0(前月水準▲12.6)となり、マイナス幅が8.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△18.7(同▲20.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲19.0(同▲23.5)、卸小売業▲12.5(同▲15.3)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△7.6(同△15.3)である。

平成31年2月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	先行き見通し 3月～5月(1月～3月)
全産業	▲10.0	▲10.0	▲10.0	▲8.5	▲5.6	▲21.6	▲4.0(▲5.7)
建設	▲22.2	▲26.3	▲5.5	▲26.3	▲47.0	▲28.5	▲19.0(▲15.7)
製造	△12.5	△18.7	△18.7	▲6.6	△6.6	±0.0	△18.7(△13.3)
卸・小売	▲28.5	▲21.0	▲38.0	▲20.0	▲3.8	▲33.3	▲12.5(▲25.0)
サービス	△6.6	▲6.2	▲6.6	△25.0	△30.7	▲15.3	△7.6(△12.5)



【平成31年2月の採算についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.4(前月水準▲16.9)となり、マイナス幅は15.5ポイント拡大した。

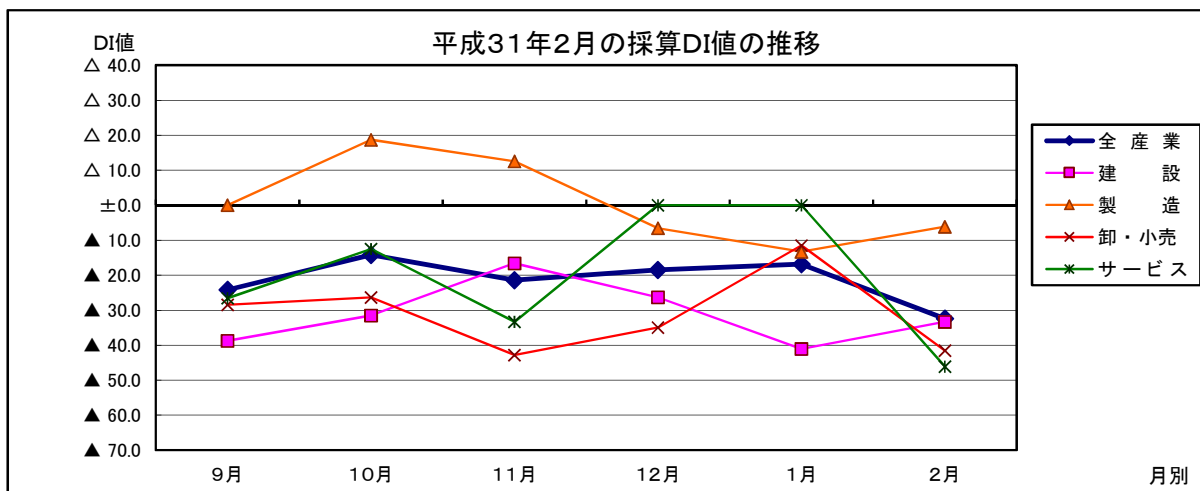
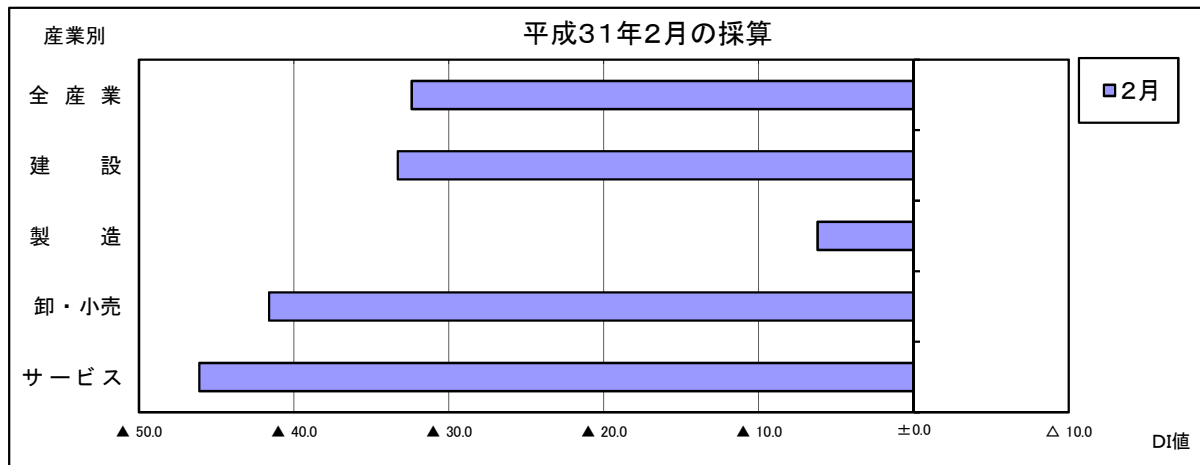
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲33.3(同▲41.1)、製造業▲6.2(同▲13.3)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲46.1(同▲0.0)、卸小売業▲41.6(同▲11.5)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.7(前月水準▲23.9)であり、マイナス幅が17.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△18.7(同▲13.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲12.5(同▲38.4)、サービス業±0.0(同▲7.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲23.8(同▲23.5)である。

平成31年2月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	先行き見通し 3月～5月(1月～3月)
全産業	▲24.2	▲14.2	▲21.4	▲18.5	▲16.9	▲32.4	▲6.7(▲11.4)
建設	▲38.8	▲31.5	▲16.6	▲26.3	▲41.1	▲33.3	▲23.8(▲36.8)
製造	±0.0	△18.7	△12.5	▲6.6	▲13.3	▲6.2	△18.7(△6.6)
卸・小売	▲28.5	▲26.3	▲42.8	▲35.0	▲11.5	▲41.6	▲12.5(▲30.0)
サービス	▲26.6	▲12.5	▲33.3	±0.0	±0.0	▲46.1	±0.0(△25.0)



【平成31年2月の仕入単価についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.7(前月水準▲29.5)となり、マイナス幅が0.2ポイント拡大した。

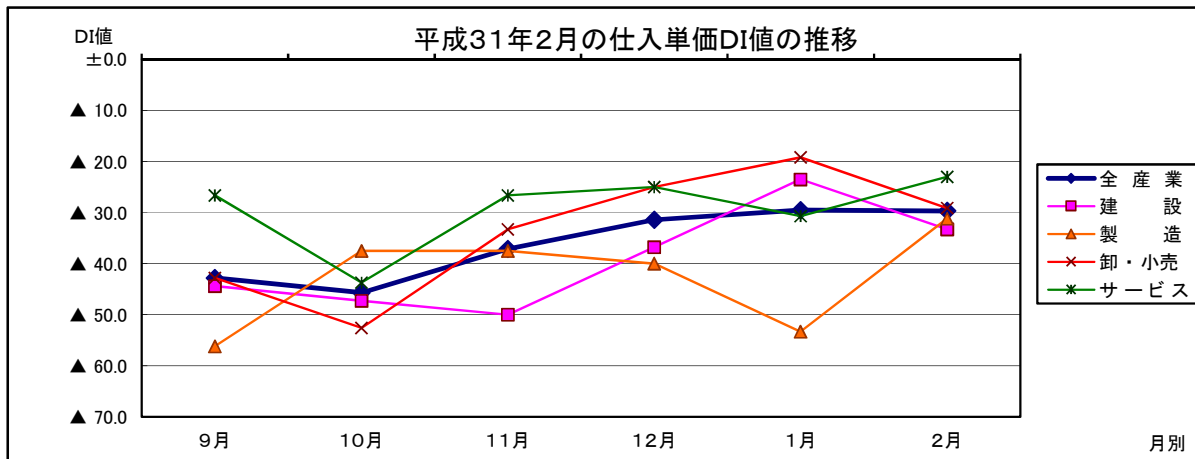
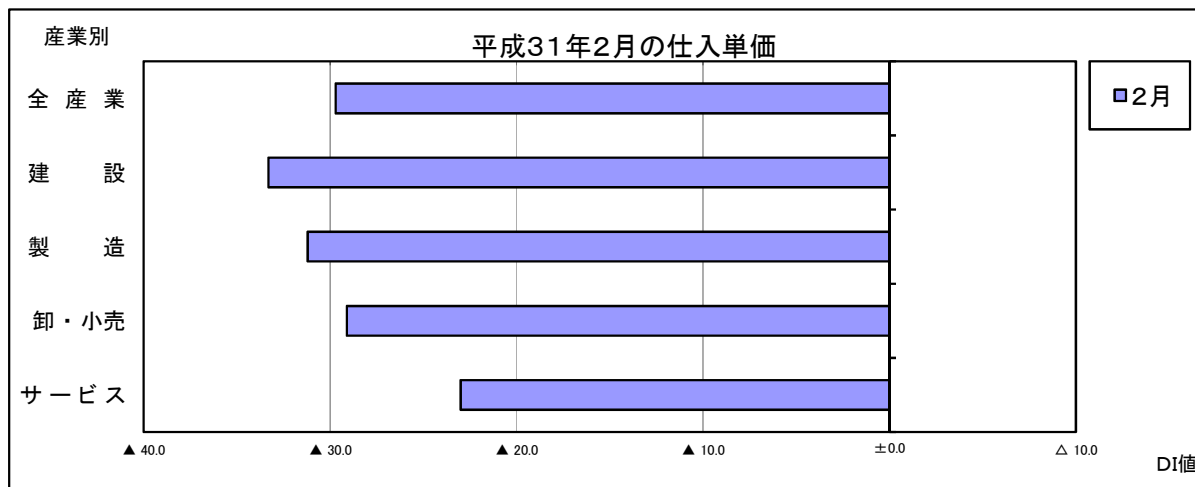
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲31.2(同▲53.3)、サービス業▲23.0(同▲30.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲29.1(同▲19.2)、建設業▲33.3(同▲23.5)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲29.7(前月水準▲25.3)となり、マイナス幅が4.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲15.3(同▲30.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲28.5(同▲17.6)、製造業▲43.7(同▲33.3)、卸小売業▲29.1(同▲23.0)である。

平成31年2月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	先行き見通し 3月～5月(1月～3月)
全産業	▲42.8	▲45.7	▲37.1	▲31.4	▲29.5	▲29.7	▲29.7(▲34.2)
建設	▲44.4	▲47.3	▲50.0	▲36.8	▲23.5	▲33.3	▲28.5(▲42.1)
製造	▲56.2	▲37.5	▲37.5	▲40.0	▲53.3	▲31.2	▲43.7(▲40.0)
卸・小売	▲42.8	▲52.6	▲33.3	▲25.0	▲19.2	▲29.1	▲29.1(▲25.0)
サービス	▲26.6	▲43.7	▲26.6	▲25.0	▲30.7	▲23.0	▲15.3(▲31.2)



【平成31年2月の従業員についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△28. 3(前月水準△29. 5)となり、プラス幅が1. 2ポイント縮小した。

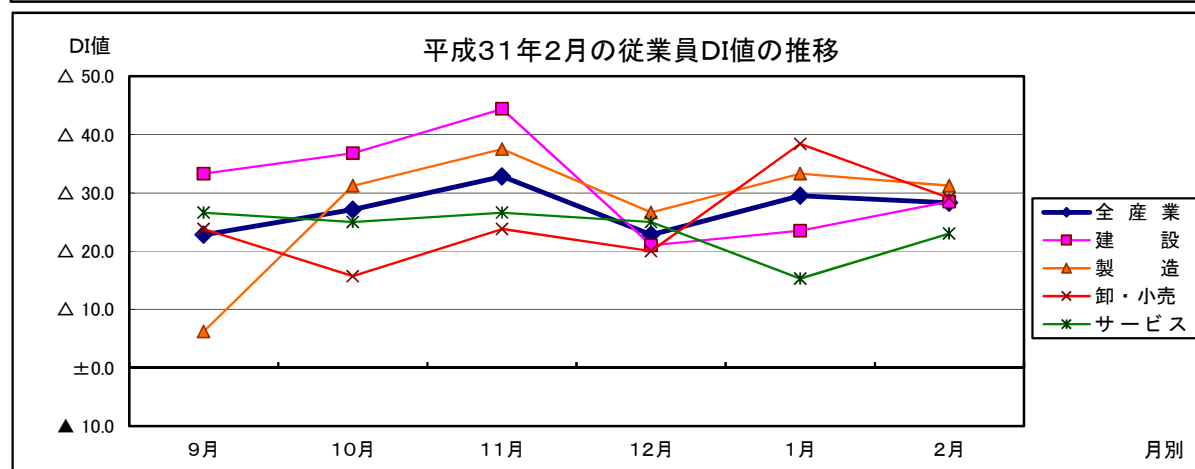
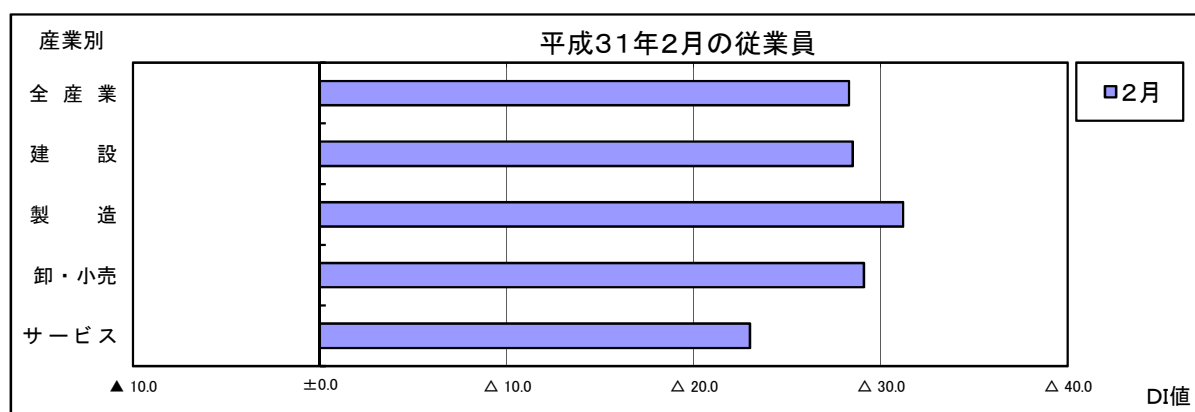
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△23. 0(同△15. 3)、建設業△28. 5(同△23. 5)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業△29. 1(同△38. 4)、製造業△31. 2(同△33. 3)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△32. 4(前月水準△29. 5)となり、プラス幅が2. 9ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△30. 7(同△15. 3)、製造業△43. 7(同△33. 3)、建設業△28. 5(同△23. 5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業△29. 1(同△38. 4)である。

平成31年2月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	先行き見通し 3月～5月(1月～3月)
全産業	△22.8	△27.1	△32.8	△22.8	△29.5	△28.3	△32.4(△24.2)
建設	△33.3	△36.8	△44.4	△21.0	△23.5	△28.5	△28.5(△21.0)
製造	△6.2	△31.2	△37.5	△26.6	△33.3	△31.2	△43.7(△26.6)
卸・小売	△23.8	△15.7	△23.8	△20.0	△38.4	△29.1	△29.1(△15.0)
サービス	△26.6	△25.0	△26.6	△25.0	△15.3	△23.0	△30.7(△37.5)



【平成31年2月の資金繰りについての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12. 1(前月水準▲4. 2)となり、マイナス幅が7. 9ポイント拡大した。

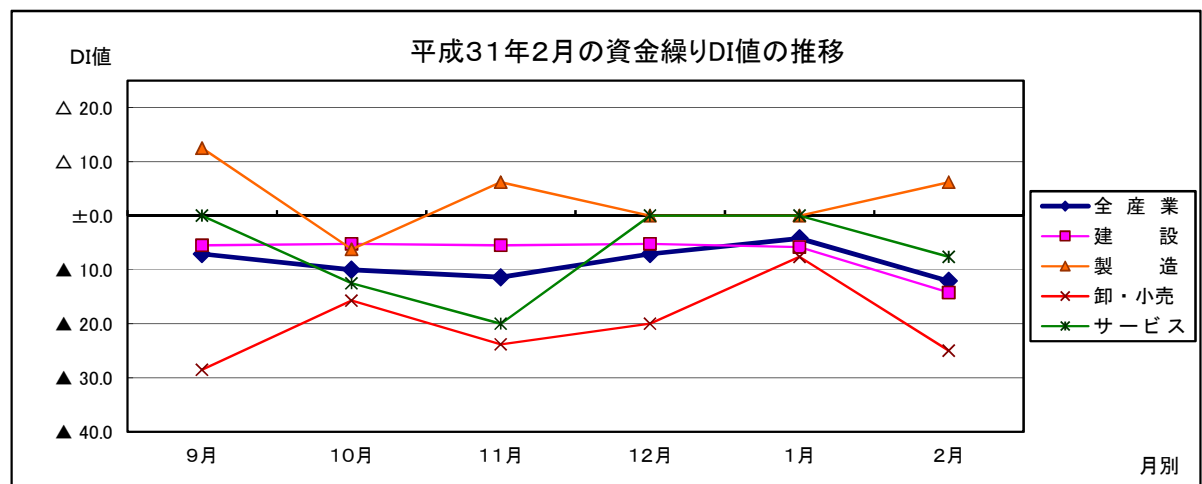
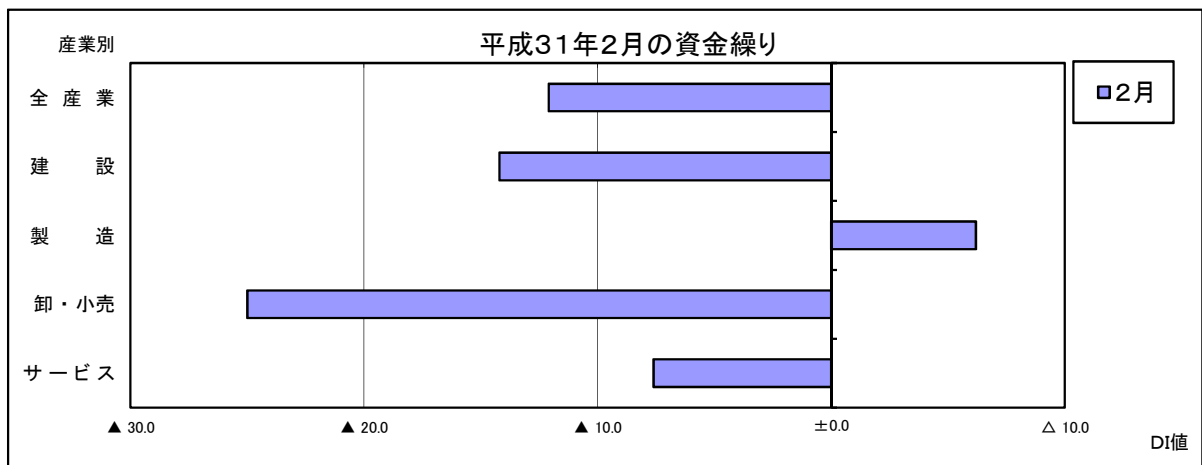
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△6. 2(同±0. 0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲25. 0(同▲7. 6)、建設業▲14. 2(同▲5. 8)、サービス業▲7. 6(同±0. 0)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5. 4(前月水準▲4. 2)となり、マイナス幅が1. 2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、変らない見通しの業種は、サービス業±0. 0(同±0. 0)、製造業±0. 0(同±0. 0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲9. 5(同▲5. 8)、卸小売業▲8. 3(同▲7. 6)である。

平成31年2月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成30年 9月	10月	11月	12月	平成31年 1月	2月	先行き見通し 3月～5月(1月～3月)
全産業	▲7.1	▲10.0	▲11.4	▲7.1	▲4.2	▲12.1	▲5.4(▲14.2)
建設	▲5.5	▲5.2	▲5.5	▲5.2	▲5.8	▲14.2	▲9.5(▲21.0)
製造	△12.5	▲6.2	△6.2	±0.0	±0.0	△6.2	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲28.5	▲15.7	▲23.8	▲20.0	▲7.6	▲25.0	▲8.3(▲25.0)
サービス	±0.0	▲12.5	▲20.0	±0.0	±0.0	▲7.6	±0.0(▲6.2)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 21.6	▲ 4.0	▲ 32.4	▲ 6.7	▲ 29.7	▲ 29.7	△ 28.3	△ 32.4
建設	▲ 28.5	▲ 19.0	▲ 33.3	▲ 23.8	▲ 33.3	▲ 28.5	△ 28.5	△ 28.5
製造	±0.0	△ 18.7	▲ 6.2	△ 18.7	▲ 31.2	▲ 43.7	△ 31.2	△ 43.7
卸・小売	▲ 33.3	▲ 12.5	▲ 41.6	▲ 12.5	▲ 29.1	▲ 29.1	△ 29.1	△ 29.1
サービス	▲ 15.3	△ 7.6	▲ 46.1	±0.0	▲ 23.0	▲ 15.3	△ 23.0	△ 30.7

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 24.3	▲ 13.5	▲ 12.1	▲ 5.4
建設	▲ 33.3	▲ 28.5	▲ 14.2	▲ 9.5
製造	±0.0	△ 6.2	△ 6.2	±0.0
卸・小売	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 25.0	▲ 8.3
サービス	▲ 23.0	▲ 7.6	▲ 7.6	±0.0

【平成30年12月業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	トピック	業種
建設	消費税増税の前に工事をしようという感じも若干あるが、必要に迫られする工事の方が多く感じる。財布の紐は固いです。	消費税増税	一般土木建築工事業
	柏市役所、県柏土木、区画整理事務所等の早期発注が多い。とてもありがたい事である。	受注増加	土木工事業
	好景気感がなく、活気が乏しい。職種により差が出ている。	不景気	電気工事業
	原材料、部材の仕入価格は上げ止まりとなった。が、施工単価がじわじわと下落している。受託物件の規模、件数共に前年度と変わらないが、施工単価の下落により売上高減少、利益減少となっている。現場での施工時間も早朝、残業禁止が増え、天候に左右される現場施工は工期に間に合わせる為の人材確保も増え、利益減少となっている。4月からは土曜日、日曜日の現場施工禁止も増える為、益々厳しい業況となりそう。	売上減少 利益減少	職別工事業
	2月は稼働日も少ないので景況は悪化。3月からは畳表替や裏返し、新畳仕上げ工事等が増えてくれることを祈ります。	売上減少	内装工事業
製造業	紙の値上げが大きく響いている。通販による宅配が増えた為に、各紙メーカーが普通紙より段ボール製作に力を入れている為。	経費増加	印刷業
	社員の高齢化と若手社員の退職で今後の人材不足が懸念される。募集は常に出しているが、若い人の応募がなかなか無い。休日日数を増やす等色々手は打っているが、難しいのが現状である。	人手不足	自動車付属品製造業
	医療向け建築資材の受注見通しがオリンピック関連施工の影響で不透明な状態。	先行き不透明	特殊産業用機械
	仕入単価の上昇が続いている。年末の駆け込み需要の反動か受注は落ち込んでおり、消費税増税前の駆け込みも未だ見られない。	受注減少 消費税増税	機械・同部品製造業
	経済の流れの方向を判別できず、不安感ばかりが煽られている現況。思いを原点回歸し、知恵を絞って抜けていきたいと思う。	先行き不透明	印刷業
	この3月までは繁忙で売上含め好調であったが、客先の設備投資が鈍化し、3月以降の受注残が極端に減少している。	売上好調 先行き悪化の見通し	金属加工機械製造業
	大規模製造業と中小・零細製造業の業績が乖離している。川上の大企業が利益を内部留保して、給与水準を押し上げて、人員を確保している。しかし、下請けには相変わらずのコストダウン要求ではいつまでたっても日本の8割以上を占める中小企業で働く人々の賃金は上がらないし、人員の確保も出来ない。税金もろくに払っていない日本の代表ともいえる世界的大企業には、政府からもっと下請けに利益を還元する等の措置を強制的に行う要請等しないと状況は変化しないのではないか。	大規模企業への意見	金属製品製造業
卸小売業	2月期は食関連消費は好調に推移するも、アパレルを中心とした物販に対する消費は不振傾向。	売上好調 物販消費不振	百貨店
	中旬まで各物処分できたが、下旬になったら例年より早く各物が止まってしまった。かと言って春物出足は今一つとなり、前半の売上UPを食ってしまった。	売上停滞	婦人・子供服小売業
	日本とEUのEPAによる関税撤廃のニュースは消費者の関心も高く、大きく打ち出しはしなかったものの影響はあった。3月より値上げする商品は2月末に動きが大きかった。	日欧EPAの影響	各種商品小売業
	主力商品が学校関係の為、3、4、5月で年間のほぼ50%を販売する。	3～5月売上増加	書籍・文房具小売業
	店舗売上は堅調に推移。とりわけバレンタイン商戦が伸張。	売上堅調	百貨店
	1月下旬より改装に伴う休業店舗増の中、昨年リニューアルに伴い食物販導入が奏功し、売上は好調に推移。	売上好調	各種商品小売業
	値上げのニュースが多く、全体的な買い控えが続くのが不安。年度末の為アルバイトの辞めていく人数に新規が追い付かない。	先行き不安 人手不足	各種商品小売業
	SNS効果でバレンタインが昨年より売上増。	一部商品売上増	菓子・パン小売業
	春の商材の他社品が多くなり、昨年通りの受注が取れていない。GW10連休の対策を思案中。すでに輸送トラックが確保できない状況。消費税増税時期と定番品の特需との対策が打てない状況。	受注減少 GW対策 消費税増税	食料・飲料卸売業
	販売員のパート、バイトが集まらず。	人手不足	菓子・パン小売業
サービス業	雪の影響で若干のキャンセル等あったが、大きくは変動なし。	天候の影響	日本料理
	貨物自動車運送事業法が一部改正され、適正運賃での受注に期待したい。業界の人手不足は継続している。	人手不足	一般貨物自動車運送業
	購入希望の方は、前回同様入っています。ただ、契約までに時間がかかっており、価額に対する値引き要望が強い。売却については相続による売却や空き家処分等が増えています。全体としては厳しい状況です。	売上減少	不動産管理業
	民間主義のまちづくりはトップやリーダーが決め手。今はいいです。4年以上のそごう空家、商業地の塾の乱立を見れば分かります。	まちづくりについて	不動産賃貸業

【平成30年12月業種別業界内トピックス】

	昨年末に竣工した居住用収益物件の客付け状況の出足が、繁忙期入りしたにも関わらず鈍い。既存収益物件は良好。	売上停滞	不動産賃貸・管理業
	年度末駆け込み工事でタイトな状況。ただ、年度明けが不安です。	先行き不透明	ソフトウェア業

◎利益減少

各業種より、「大規模製造業と中小・零細製造業の業績が乖離している。大企業は利益を内部留保し、給与水準を押し上げて人員を確保。しかし、下請けにコストダウン要求する為、中小企業で働く人々の賃金は上がらないし、人員確保も出来ない」(金属製品製造業)、「仕入単価の上昇が続いている。年末の駆け込み需要の反動か受注は落ちた。消費税増税前の駆け込みも見られない」(機械・同部品製造業)、「原材料、部材の仕入価格が上げ止まるも、施工単価が下落。受託物件の規模、件数は前年度と変わらないが、施工単価の下落により売上高、利益減少。また、早朝、残業禁止により、工期に間に合わせる為の人材確保も増加。4月からは土日の現場施工禁止も増える為、益々厳しい業況となりそう」(職別工事業)との声が寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「社員の高齢化と若手社員の退職で今後の人材不足が懸念される。募集は出しているが、若い人の応募が無い。休日日数を増やす等色々手は打つも、難しいのが現状」(自動車付属品製造業)、「年度末の為、辞めるアルバイトの人数に新規が追いつかない」(各種商品小売業)、「販売員のパート、バイトが集まらず」(菓子・パン小売業)、「貨物自動車運送事業法が一部改正。適正運賃での受注に期待。業界の人手不足は継続」(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

平成31年2月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲24.3に対し、「CCI-LOBO」が▲18.1で柏の方がマイナス幅が6.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.6に対し、「CCI-LOBO」が▲14.0で柏の方がマイナス幅が7.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.4に対し、「CCI-LOBO」が▲17.8で柏の方がマイナス幅が14.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.7に対し、「CCI-LOBO」が▲38.5で柏の方がマイナス幅が8.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、サービス業であり、建設業、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△28.3に対し、「CCI-LOBO」が△25.9で柏の方がプラス幅が2.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、サービス業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.3に対し、「CCI-LOBO」が▲12.1で柏の方がマイナス幅が1.8ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業である。

平成31年2月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 24.3	 ▲ 33.3	 ±0.0	 ▲ 33.3	 ▲ 23.0
CCI—LOBO	 ▲ 18.1	 ▲ 8.5	 ▲ 12.2	 ▲ 32.4	 ▲ 15.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 21.6	 ▲ 28.5	 ±0.0	 ▲ 33.3	 ▲ 15.3
CCI—LOBO	 ▲ 14.0	 ▲ 4.3	 ▲ 3.9	 ▲ 33.2	 ▲ 11.7

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 32.4	 ▲ 33.3	 ▲ 6.2	 ▲ 41.6	 ▲ 46.1
CCI—LOBO	 ▲ 17.8	 ▲ 12.5	 ▲ 12.6	 ▲ 28.9	 ▲ 17.1

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 29.7	 ▲ 33.3	 ▲ 31.2	 ▲ 29.1	 ▲ 23.0
CCI—LOBO	 ▲ 38.5	 ▲ 43.3	 ▲ 51.0	 ▲ 28.2	 ▲ 32.9

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 28.3	 28.5	 31.2	 29.1	 23.0
CCI—LOBO	 25.9	 35.1	 22.1	 21.7	 30.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 12.1	 ▲ 14.2	 6.2	 ▲ 25.0	 ▲ 7.6
CCI—LOBO	 ▲ 10.3	 ▲ 5.9	 ▲ 7.1	 ▲ 19.0	 ▲ 11.9

CCI - L O B O

商工会議所早期景気観測(2月速報)

調査期間：平成31年2月13日～19日

調査対象：全国の386商工会議所が3038企業
にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、足踏み。先行きは懸念材料多く、慎重な見方が続く

2月の全産業合計の業況DIは、▲18.1と、前月から▲2.1ポイントの悪化。民間工事を中心とする建設業の底堅い動きに加え、インバウンド需要が堅調に推移したものの、根強い消費者の節約志向により売上が伸び悩んだ飲食・宿泊業を中心に、サービス業の業況感が悪化した。また、暖冬に伴う農産物の出荷量増加・価格下落により、卸売業の業況悪化を指摘する声が聞かれた。深刻な人手不足の影響拡大や原材料費の高止まりによる収益圧迫が中小企業のマインドを下押ししており、景況感には鈍さが見られる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲16.0（今月比+2.1ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実体はほぼ横ばい。個人消費の拡大やインバウンドを含めた観光需要拡大、補

正予算の早期執行への期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁遅れ、貿易摩擦の激化、世界経済の動向、消費増税の影響など不透明感が増す中、中小企業の景況感は慎重な見方が続く。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、小売業で改善、製造業でほぼ横ばい、その他の3業種で悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共工事の発注量が少なく、売上は伸び悩んでいる。だが、国や県が防災・減災に重点を置いて予算編成を行っているため、新年度にはインフラ整備などの受注増を期待している」（土木工事業）、「宿泊施設や事業所を始めとする建設依頼は増加しているが、人手不足か

ら受注を断わらざるを得ない。賃上げを実施するなどの対策を講じているが、人手不足の解消にはつながらず、もはや打つ手がない」（一般工事業）

【製造業】「米中貿易摩擦や中国経済減速の影響から、受注量が減少し、売上悪化となった。米中貿易交渉の行方次第では、売上減の長期化も懸念される」（機械部品製造業）、「人手不足を補うための省力化投資が多く、受注は高水準を維持している。しかし、国内外的政治経済に関する不透明感から、先行きに対する不安感は拭えない」（産業用機械製造業）

【卸売業】「消費の伸び悩みを背景に、飲食業からの引き合いが鈍くなっている。徹底したコストカットを行うとともに、新規取引先の開拓も進めていかねばならない」（飲食料品卸売業）、「堅調な建設需要を背景に売上は増加しているが、高力ボルトの供給不足が深刻で、入荷が遅れが生じている。ボルト不足を理由に、一部の販売先では建設案件の延期や中止も出てしまつてい

る」（建設資材卸売業）

【小売業】「インバウンドの来店客数が伸び、売上は改善。特に化粧品や宝飾品の売れ行きがよく、中国の春節も好材料となった」（百貨店）

「消費者の節約志向が根強く、前年に比べ客数・客単価ともに減少した。また、暖冬の影響から冬物衣料、特にコート類の販売が振るわず、過剰在庫となっている」（衣料品小売業）

【サービス業】「インバウンド需要は堅調なものの、国内旅行客数の落ち込みをカバーできなかった。日韓関係の悪化による訪日旅行者数の減少も懸念材料である」（宿泊業）

「配送依頼は多く、前年に比べ売上は改善。しかし、ドライバー不足が深刻化する中、引越や決算期末に対応した貨物輸送など、年度末の繁忙期に対応できるか不安を覚えている」（運送業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲16.0	▲7.6	▲9.6	▲17.8	▲31.4	▲13.9
10月	▲17.2	▲10.7	▲10.2	▲24.9	▲29.3	▲15.2
11月	▲14.9	▲9.9	▲10.2	▲9.3	▲29.2	▲13.2
12月	▲15.7	▲8.1	▲9.7	▲17.1	▲31.6	▲12.4
1月	▲16.0	▲6.3	▲12.0	▲17.9	▲36.3	▲8.6
2月	▲18.1	▲8.5	▲12.2	▲23.1	▲32.4	▲15.6
見通し	▲16.0	▲9.8	▲13.7	▲19.4	▲28.2	▲10.5

柏の景気情報

(2月の調査結果のポイント)

調査期間：平成31年2月27日～3月11日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数74件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲20.0	▲22.2	▲12.5	▲33.3	▲6.6
10月	▲12.8	▲10.5	△6.2	▲36.8	▲6.2
11月	▲12.8	▲5.5	△12.5	▲38.0	▲13.3
12月	▲12.8	▲21.0	±0.0	▲30.0	△6.2
1月	▲19.7	▲23.5	▲20.0	▲26.9	±0.0
2月	▲24.3	▲33.3	±0.0	▲33.3	▲23.0
見通し	▲13.5	▲28.5	△6.2	▲16.6	▲7.6

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

「柏市」の「業況」

全産業業況D Iは悪化。先行きは懸念材料多いが改善の動きあり

2月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲24.3(前月水準▲19.7)となり、マイナス幅が4.6ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業±0.0(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲23.0(同±0.0)、建設業▲30.3(同▲23.5)、卸小売業▲33.3(同▲26.9)。

9)である。

【建設業】からは、「消費税増税前というより、必要に迫られた工事の方が多く感じられる。財布の紐は固い」「(一般土木建築工事業)、「市、県の早期発注が多く、ありがたい」「(土木工事業)、「好景気感がなく、活気が乏しい。職種により差が出ている」「(電気工事業)、「2月は稼働日が少なく景況悪化。3月から畳表替や裏返し、新畳仕上げ工事等増加を折る」「(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「紙の値上げが大きく響いている。通販による宅配が増え、各紙メーカーが普通紙より段ボール製作に力を入れている為」「(印刷業)、「医療向け建築資材の受注見通しがオリンピック関連施工の影響で不透明」「(特殊産業用機械)、「経済の流れの方向を判別できず、不安感ばかりが煽られている現況。知恵を絞って抜けていきたい」「(印刷業)、「3月までは売上含め好調だったが、客先の設備投資が鈍化し、3月以降の受注残が極端に減少」「(金属加工機械製造業、などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「食関連消費は好調に推移するも、アパレルを中心とした物販に対する消費は不振傾向」「百貨店)、「日欧EPAによる関税

撤廃のニュースは消費者の関心も高く、影響あり。3月より値上げする商品は2月末に動きが大きかった」「(各種商品小売業)、「主力商品が学校関係の為、3～5月で年間のほぼ50%を販売」「(書籍・文房具小売業)、「店舗売上は堅調に推移。とりわけバレンタイン商戦が伸張」「(百貨店)、「1月下旬より改装に伴う休業店舗増の中、昨年リニューアルに伴い食物販導入が奏功。売上は好調に推移」「(各種商品小売業)、「値上げのニュースが多く、全体的な買い控えが続くのが不安」「(各種商品小売業)、「SNS効果でバレンタインが昨年より売上増」「(菓子・パン小売業)、「春の商材の他社品が多く、昨年通りの受注が取れていない。GW10連休の対策を思案中。すでに輸送トラックが確保できない状況。消費税増税時期と定番品の特需との対策が打てない状況」「(食料・飲料卸売業)、「中旬まで各物処分できたが、下旬は例年より早く止まった。春物出足は今一つで、前半の売上UPを食った結果に」「(婦人・子供服小売業などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「雪の影響で若干のキャンセル等あったが、大きく変動なし」「(日本料理)、「民間主義のまちづくりはトップやリーダー

が決め手。今はいない。そこう空き家、商業地の塾の乱立を見れば分かる」「(不動産賃貸業)、「年度末駆け込み工事でタイトな状況。ただ、年度明けが不安」「(ソフトウェア業)、「購入希望の方は、前回同様入っている。ただ、契約までに時間がかかり価額の値引き要望が強い。売却については、相続や空き家処分等が増加。全体としては厳しい状況」「(不動産管理業)、「昨年末に竣工した居住用収益物件の客付け状況の出足が、繁忙期入りしたにも関わらず鈍い。既存収益物件は良好」「(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

2月の景気キーワード

◎利益減少

各業種より、「大規模製造業と中小・零細製造業の業績が乖離している。大企業は利益を内部留保し、給与水準を押し上げて人員を確保。しかし、下請けにコストダウン要求する為、中小企業で働く人々の賃金は上がらないし、人員確保も出来ない」「(金属製品製造業)、「仕入単価の上昇が続いている。年末の駆け込み需要の反動か受注は落ちた。消費税増税前の駆け込みも見られない」「(機械・同部品製造業)、「原材料、部材の仕入価格が上げ止まるも、施工単価が下

◎人手不足

各業種より、「社員の高齢化と若手社員の退職で今後の人材不足が懸念される。募集は出しているが、若い人の応募が無い。休日日数を増やす等色々手は打つも、難しいのが現状」「(自動車付属品製造業)、「年度末の為、辞めるアルバイトの人数に新規が追い付かない」「(各種商品小売業)、「販売員のパート、バイトが集まらず」「(菓子・パン小売業)、「貨物自動車運送事業法が一部改正。適正運賃での受注に期待。業界の人手不足は継続」「(一般貨物自動車運送業)との声が寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調査(COIT-100)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲24.3に対し、「CCI・LBO」が▲18.1で柏の方がマインスマ幅が6.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上悪い。